

野田・九条通信

2006年・10月号
NO11
「野田・九条の会」事務局
TEL 7122-0502

九月例会と活動の報告

「憲法が変わると日本はどうなるの」と題して 小森陽一氏の講演会を十月十五日、北コミにて開催

九月例会は、暑さも和らいだ九日に予定通り開催されました。

例会には、新しく呼掛け人になっていただきました、旧関宿町在任の岸田眞さん（都立高校元教師）も出席しました。

折しもマスコミは、自民党総裁選挙で候補者が「改憲」を選挙公約にしたことを大きく報道し、「九条の会」の運動促進がいっそう強く求められることを実感しながらの会議となりました。

終戦記念日の催物 毎年の実施を確認

今年の「じっくり考えよう平和への一週間」の催しは、宣伝が弱く参加者が少なかったが、「内容が良かった」の意見が出され、工夫を積み重ねながら継続して実施することを確認しました。

会場も、「パネル展と催物が一緒の会場の方が良いのでは」とか、「お盆と重ならないほうが良

いのでは」とする意見や、「早くから準備に取り組むことが必要」など、活発な意見が出されました。賛同者の皆さんも、ぜひご意見をお寄せ下さい。

小森講演会に全力を

小森陽一氏を招いての講演会は、場所が北コミユニティセンターに確

- ① 演題：「憲法が変わると日本はどうなるの」
- ② 日時：十月十五日（日）午後二時半開演
- ③ 前座：トーンチャイムの演奏（四曲）・大型紙芝居で語る戦争体験
- ④ 宣伝：野田市全域の新運動です。ご協力下さい。

9の日は「署名の日」

毎月9日および19日は、街頭・駅頭での九条署名運動です。ご協力下さい。

九条への想い 岸田 眞（元教師「野田・九条の会」呼掛け人） 「神風が吹くから敗けない」―教育の恐ろしさ―

「日本は神風が吹くから、絶対に敗けない」と教わり、それを信じきっていた集団疎開での小学五年生。華北の味噌工場に単身赴任をしていた父からの仕送りは、敗戦でまったく途絶えてしまい、十七才の兄を筆頭に四人の子供を抱えた母の苦勞が始まった。

進駐軍の洗濯工場できつい労働をしていた母は、昭和二十七年に五十二才の若さで脳溢血で死んだ。入院もできず、半身付随のまま。

貧乏と戦争にはいつも恨みを持っていた私が、それらの真の原因を知

ったのは、定時制高校に入ってHRなどでの先生の話からだ。日本の侵略戦争の歴史の真実を知り、目からうろこが取れていった。「神風」教育と「歴史の真実を教える」教育との両方を学んだ私にとって、最近の「日の丸・君が代」強制的教育には、恐怖まで感じる。

七十才を過ぎた私は、残り何年、元気で生きて行けるかは分からないが、最後まで、教育の大切さと恐ろしさを語り続けて行きたい。



お知らせ

小森陽一氏の
プロフィール

1953年、東京生れ。北海道大学大学院文学研究博士過程終了。現在、東京大学教授。「九条の会」事務局長。「漱石を読み直す」「日本語の近代」「青い空は青いままで」ともに伝えたい。「心臓コントロール社会」など著書多数
「九条の会」学習会

日時：十月七日（土）午後一時半から
場所：全理連ビル九階 JR代々木駅北口正面
参加費：五百円
主催：九条の会事務局
新内閣のもとでの、新たな改憲の動きに対する批判的視点を提供しようとするものです。

「野田・九条の会」
十月例会のご案内

日時：十月七日（土）午後二時から
場所：樺のホール四階
講演会や署名運動を更に具体化します。